

～職員と利用者、双方を守る介護を目指して～

無理をしない介護への第一歩



社会福祉法人 正寿庵会
特別養護老人ホーム エルンテハイム

ノーリフティングケア導入前の状況①

現場の状況

- ★現場では移乗・体位交換時の**身体的負担が課題**となっていた
- ★職員の**腰痛・疲労軽減の必要性**が高まっていたが福祉用具環境が不十分であった。

ノーリフティングケアの研修や取組みには参加していたが、...

- 前に進まないのはなぜ？
- わからないことだらけ！



施設の概要



理念

エルンテハイムでは、入居者様が安全で安心な生活が送れる施設として、入居者様ひとりひとりに寄り添うケアをめざし、入居者様の「自分らしい生き方、その人らしさ」を大切にします。人と人とのつながり、心と心のつながりを大切にし「ここに居て良かったな」と感じて頂けるサービスを提供します。

【入所定員】

長期	50名
短期	10名
平均介護度	4.34

【職員】

介護職員	31名
看護師	4名
事務職その他	9名

ノーリフティングケア導入前の状況②

分からない実践方法

- ①考え方・目的の職員全体への共有方法？
- ②研修参加者から現場への伝達方法？
- ③身体的負担軽減の具体的対応策とは？
- ④従来の抱え上げ介助のどこが不都合なの？



- ★上司からのノーリフティングケア普及促進事業**参加の提案**があった

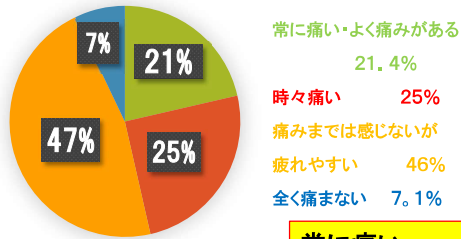
- ★職員と利用者双方にとって安全な介護を目指し**導入を決定**



新たな福祉用具の導入を中心に取り組み開始

介護職員の腰痛の実態

職員の6月の状況(腰痛)について



常に痛い・よく痛みがある
21.4%

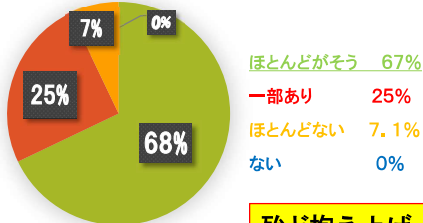
時々痛い 25%

痛みまでは感じないが
疲れやすい 46%

全く痛まない 7.1%

常に痛い
21%→7%に減

日常業務において、持ち上げや抱え上げなどの介助はありますか？(6月)



ほとんどがそう 67%

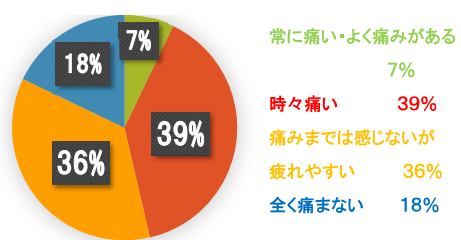
一部あり 25%

ほとんどない 7.1%

ない 0%

殆ど抱え上げ
67%→46%に減

職員の12月の状況(腰痛)について



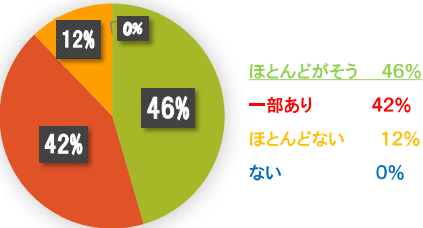
常に痛い・よく痛みがある
7%

時々痛い 39%

痛みまでは感じないが
疲れやすい 36%

全く痛まない 18%

日常業務において、持ち上げや抱え上げなどの介助はありますか？(12月)



ほとんどがそう 46%

一部あり 42%

ほとんどない 12%

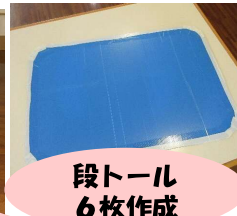
ない 0%

職員の負担軽減にむけた対策①(福祉用具導入)

新たに導入した福祉用具



モジュール型
車いす5台
追加購入



段トール
6枚作成



ボード
6個購入



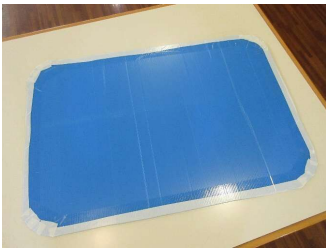
シート 35枚
グローブ 2枚

実際に体験してから職員が食いついてきた(´▽`)/

床走行リフト デモ機



福祉用具の導入の結果



先輩施設の方より作成方法、アドバイスもらい段トール作成!

今まで2名でスライドシート、移乗用バスタオルを使用していた段階では抱えていないと感じていたが……



職員も・・・楽♡

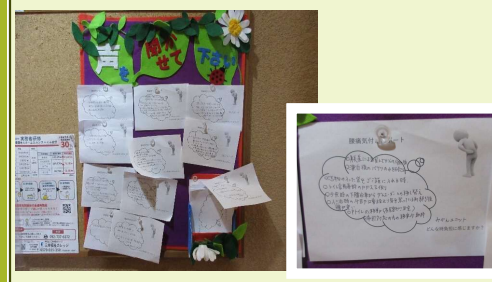
段トールを使用したことで今まで抱えていたことを実感

入居者様も安心♡

※段トール=移乗用ボードの手作り代用品

職員の負担軽減にむけた対策②(環境)

職員の声を拾う仕組み作り



汚物捨て



before



after

ポータブルの移動



before



after

福祉用具の管理

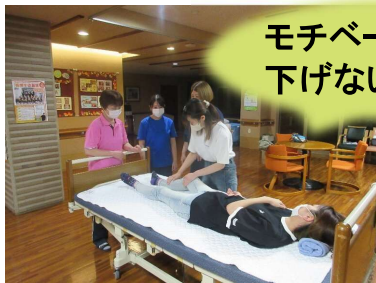


before



after

職員の負担軽減にむけた対策③(技術教育)



モチベーションを下げないように



やる気 アップ

体重移動、支持基底面を学ぶことで「体の使い方がうまくできていなかった」と実感できた、という声が上がった

取り組み中の職員の声

ノーリフティングケアの取り組みに関して 聞き取り調査

腰痛気づきレポートからの対策と取り組みを前回の腰痛対策委員会にて伝えてますが、それぞれどの程度理解し、どの程度取り組みが来ているかアンケートを行います。出来ている所(個人的に問題なし)はチェック欄に○、出来ていない所は×と理由を記入(理解できてない。分からない。実行していない。めんどくさい。等・・・正直に)お願いします。

つい・・・

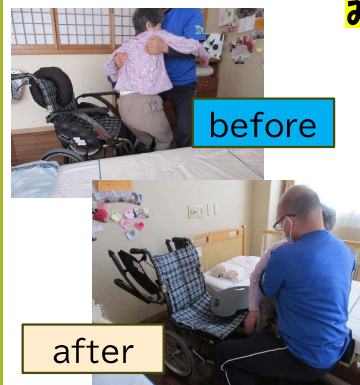
時間がない

面倒くさい

ラウンドとは別に独自の聞き取り調査

みんな正直(:) A

調査用紙も作成



腰痛気づきレポート内容	対策	チェック	理由(意見)
* ベッド上での排泄介助	基本の動きのケア技術の		
* 身長差による屈んでの介助	体の使い方		
* 体を後方に反らせる方の介助、リクライニング、車椅子上で姿勢を整える時	ベッドの高さ調整など		
* リネン交換、居室の準備時	自分に合った環境作り		
* 夜勤明けでの朝の離床介助			
* 入浴介助は普段より気を張っている為終了後腰が痛い	仕事の合間にもストレッチ		
* 体動がある方の移乗介助	を行い身体への急激な		
* 汚物をダムウェーターへ上げる時、降ろす時、ダストboxへ入れる時	負担軽減、疲労感を溜めない		
* 下膳台車からダムウェーターへ乗せ換える時			
* 書庫に書類を整理する時、上段に段ボールを上げるのがきつい			

取り組みの振り返り

- 職員の**身体的負担軽減**と、**利用者の安全・安楽な介護**を目的にノーリフティングケアを実践した
- 福祉用具の活用と介助方法の見直し**を段階的に行った
- 職員間で**共通認識**を持つため、**声掛けや情報共有**を重ねた

利用者の変化

- 移乗時の**不安や苦痛が軽減**され、**表情や反応が穏やか**になった
- リフト使用者の**緊張がゆるんだ**
- 無理な持ち上げが減り、**安全性が向上**した
- 個々の**身体状況に合わせた介助**ができるようになった

職員の变化

- 腰痛や身体的負担への**不安が軽減**された
- 「持ち上げない介護」への**意識が定着**しつつある
- 介助方法について相談・意見交換が増え**チームケアが進んだ**

まとめ

課題・反省点

- 福祉用具の**準備や移動に時間がかかる場面**があった
- 全職員の理解・技術の均一化には**継続した取り組みが必要**
- 業務の忙しさから、**従来の介助方法に戻りそうになる場面**もあった

今後に向けて

- 継続した研修・振り返りの場を設け知識と技術の定着を図る
- 利用者**一人ひとりに合ったノーリフティングケア**をさらに追求する
- 職員と利用者**双方が「安心・安全」と**感じられる介護を目指す

決意

1年目・導入初期段階だが、一定の成果と今後の課題が明確となった。引き続き実践と検証を重ね、ノーリフティングケアの定着と介護の質の向上に努める。